



熊谷市立男沼小学校

校長 新井 美保子

一 本校の沿革

本校は、長勝寺境内で産声を上げ、明治八年、男沼学校として創立され、百五十年目を迎える伝統校です。学校教育目標「確かな学力の向上と健やかな心身の育成 くなかよく かしこく たくましくく」を目指し、学校・家庭・地域が一体となり、教育活動を推進しております。「長勝寺花祭り」や「豚の丸焼き大会」など、地域と一体となって児童の健やかな成長と郷土愛を育む行事がたくさんあります。また、異年齢の児童が、一緒に遊んだり、学び合ったりする縦割り活動を通じて、社会の縮図を学び、未来をたくましく生き抜く力を育んでいます。

二 校章・校歌制定に係るエピソード

1 校章

昭和四十八年に制定。四枚の葉は、本校シンボルツリーである黄金樹（ハナキササゲ）で、当時の四つの字を示し、文字は肥沃な男沼地区の整備された農地を表現しています。

2 校歌

昭和四十六年三月制定の校歌は、当時の増田貫一校長が中心となり、日本コロムビア専属の島来展也氏の仲介で、加藤久仁男氏の作詞、海沼 実氏の作曲により誕生しました。（加藤氏は、矢沢永吉らの楽曲を手がける加藤 久（『ザ・コレクターズ』ボーカル）の父、海沼氏は、「みかんの花咲く丘」「里の秋」等で知られる日本を代表する童謡作曲家）

「いたわりあって」で始まる歌詞には、「皆仲良く平和な学校に」という願いが込められています。利根川のほとりにて、赤城、浅間、榛名山等を望む大自然に見守られながら、咲き誇る花々とともに元気いっぱい、たくましく成長していく児童の姿を描いた校歌です。

熊谷市立男沼小学校校歌 作詞：加藤久仁男 作曲：海沼 実

mf *mp*

1. いたわりあつてよーびーあつてげん
 2. おぬまのさとに あーたーらしくれき
 3. べんきょうしたり あーそーんだりの

V *V*

きにまなぶ おぬまのこ
 しをきずく まらのうたあ
 しくまなぶ おぬまのこあ

mf *V*

ねのかわもを ふくかぜに
 かぎあさまやはるなさん
 めもあらしも のりこえる

mp *V*

わかーいいのちのはながさく
 とおーくつらなるやまなみに
 おしーえとうとくみにつけ

mf *V* *V*

おぬましようがっこう ころのふるさとよ
 ひびけあしおとあかるくたくましく
 おぬましようがっこう ころのふるさとよ



桜と校舎



初代黄金樹（2本）



2代目黄金樹

校歌

一 いたわりあつて 呼び合つて

元気に学ぶ 男沼の子
 利根の川面を吹く風に

若いいのちの花が咲く
 男沼小学校 心のふるさとよ

二 男沼の里に 新しく

歴史を築く まちの歌
 赤城浅間や榛名山

遠くつらなる山なみに
 ひびけ足音 明るくたくましく

三 勉強したり 遊んだり

たのしく学ぶ男沼の子
 雨も嵐も乗り越える

教え尊く身につける
 男沼小学校 心のふるさとよ

加藤久仁男 作詞
 海沼 実 作曲